

## 第V章 地域の学校との連携校事業

### A コアSSH（岡崎高校）連携事業

#### 1 尾張・知多地区連携SSH文化講演会

『はやぶさ』が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その7年間の歩み

##### (1) 仮説

卓越した業績を残した科学者・技術者の講演を聞いて刺激を受けることにより、生徒の科学技術への興味・関心が高まり、理系科目の学習へのモチベーションが上がる。

##### (2) 方法

###### ア 地域（または県下）の理科教育における位置づけとねらい

地域の高校生・中学生の科学技術への興味・関心を高める。また、地域の教員の先進的科学技術教育への関心を高める。さらに、一宮高校 SSH 事業への理解を進める。

###### イ 連携先・対象と規模

連携先：独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA)

教授 川口 淳一郎 先生

対象と規模：一宮高校（生徒 1,080 名、教員 70 名、保護者 212 名）、

尾張・知多地区の高等学校の生徒 21 名、同教員 14 名、

一宮市内中学校代表生徒 45 名、同教員 21 名、その他 2 名

###### ウ 内容

##### (7) 事業の概要と現状の分析

小惑星探査機「はやぶさ」の科学的な意義、奇跡的な帰還、達成した歴史的偉業についてお話をいただいた。奇跡的ともいえる「はやぶさ」の帰還を成し遂げた偉業の陰にどのような努力があったのか。トラブルに対処できるようにどのような準備がなされていたのか。科学者として大切なことは何か。本講演を機会として、参加した生徒に、これから何を学ぶべきなのかを考えさせた。



講演会の様子

##### (イ) 事業の取り組み

###### a 実施日時

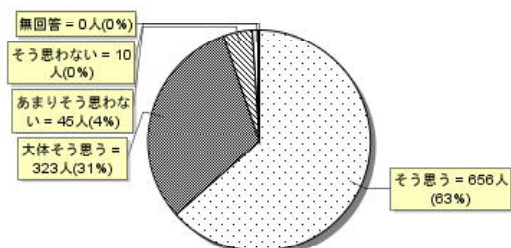
平成 23 年 10 月 31 日（月） 12:50 ～ 16:00

###### b 実施場所 一宮市民会館 大ホール、第 3、4 会議室

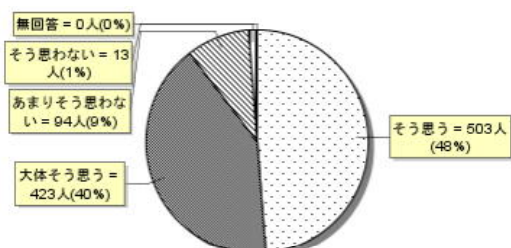
###### c 注意・工夫した点

講演の直前の時間を利用して、小惑星探査機「はやぶさ」の構造や飛行日程に関する動画を見せた。

#### 生徒・事後アンケートの結果



#### 講演の内容に興味・関心が持てましたか。



#### 講演の内容は将来の役に立つと思いますか。

##### (3) 検証

###### ア 参加生徒の事後アンケートから

左のグラフは参加者アンケートの一部である。参加者が講演の内容に興味を持って聞いたことが分かる。また、講演内容が役に立ったと答えていることは、参加者が講演から刺激を受けて前向きなモチベーションを得たことを示している。

###### イ 今後の事業に向けて

平日での実施であったため、地域の高校生が参加するためには通常の授業を休む必要があり、そのために希望しても参加できない場合があった。今後、日程や参加方法について検討をしたい。

また、連携地域外からではあったが、一宮高校のホームページを見て希望を申し出た生徒が 2 名（中学生 1 名、小学生 1 名）参加した。このような生徒は興味・関心や意欲が大変強い生徒であり、参加させることに意義が感じられた。